

# 柏の自然 ウォッチング

身近な柏の自然を訪ねてみませんか

# 目次

利根運河エリア	3
利根川エリア	7
こんぶくろ池・正連寺エリア	11
大堀川流域エリア	15
増尾城址・広幡八幡エリア	19
柏市南部エリア	23
大津川河口エリア	27
若白毛谷津エリア	31
手賀の丘公園周辺エリア	35
手賀・布瀬エリア	39

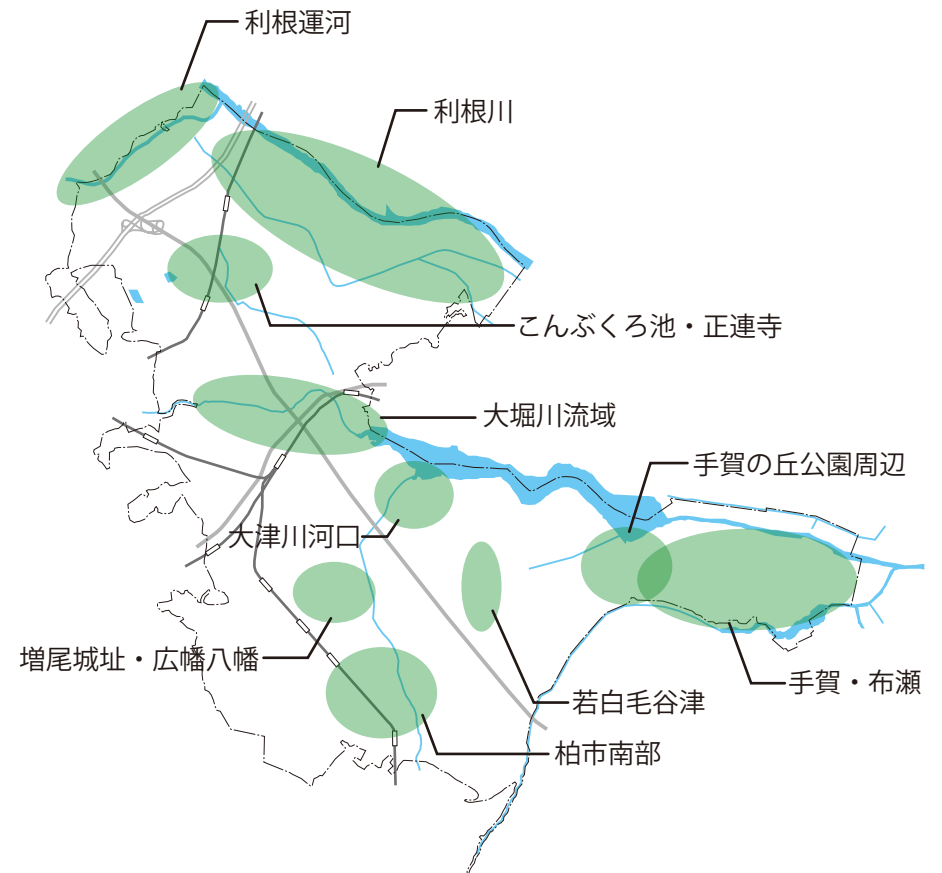
## はじめに

本書「柏の自然ウォッチング」は、かしわ環境ステーション運営協議会が2006～2008年度の3年間にわたって、柏市の委託で行った柏市自然環境調査の成果に基づくものです。現在の柏市の自然環境を知って関心をもってもらいたいことを願って作成しました。

ここで紹介している地域は、自然環境調査を踏まえ、市民調査員として参加された皆さんが、貴重な動植物や優れた自然景観に出会える場所、次世代のために保全していきたいと願う場所です。

開発が進む中で、柏市内にはまだ多くの豊かな自然環境が残されています。皆さんも是非、この冊子を手にとって、身近な自然に目を向けてみませんか？

なお、「柏自然ウォッチャーズ」は、柏市自然環境調査に参加した市民有志でつくった、地域の環境保全活動を推進していくためのネットワークです。ご興味のある方は、右記かしわ環境ステーションまで、お気軽にお問い合わせください。



### かしわ環境ステーション

〒277-0054

千葉県柏市南増尾 56-2 南部クリーンセンター 3階

TEL 04-7170-7090 MAIL info@kankyostation.org

開館 月～金 13:00～17:00 (休館 土日祝、年末年始)

### <現地を訪れる際のお願い>

民有地へはむやみに立ち入らないでください。

営巣地への接近、動植物の採取・採集はやめましょう。

# 利根運河

明治期に水運の要としてつくられた利根運河は、利根川と江戸川を結びつけたことで、人だけでなく、多くの生き物が利用することになりました。本来の役割を終えた現在では、広大な自然環境を育む歴史的文化遺構として、多くの人が訪れる場所となっています。

谷津の原風景を現在に残す大青田の湿地など、いくつもの谷津が利根運河と交差して、独特な景観を構成しています。また、利根運河の利根川側の水田地帯から西の地域には、船戸・大青田・小青田地区の古道と集落があり、クヌギ等で構成される屋敷林が点在しています。



ヒドリガモ



カシラダカ



ミヤマチャバネセセリ



マメハンミョウ



イヌコリヤナギ



ウマノアシガタ



ヒシ



クサフジ



ゴキツル

利根運河土手は、年に数回下草刈りが行われていますが、それでも貴重な草花を四季を通して見ることができます。

また、周辺の谷津の斜面林や湿地などと相まって、豊かな生態系を有する運河周辺では、猛禽類などの姿も多く観察することができます。

# 利根運河

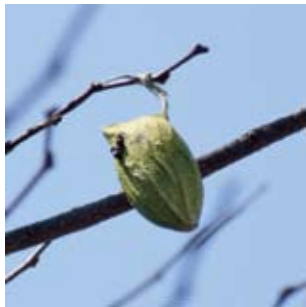
## 大青田湿地



国道 16 号線の東側に広大な湿地が広がっています。カヤネズミやホンドタヌキ、ニホンノウサギの哺乳類から、猛禽類、ショウジョウトンボなどの昆虫類、そしてワタラセツリフネソウの大群落など、多様な動植物を観察することができます。



カヤネズミの巣



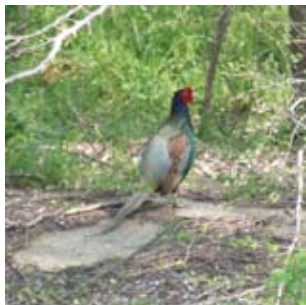
ウスタビガの蒴



ショウジョウトンボ



オニヤンマ



キジ



ワタラセツリフネソウ



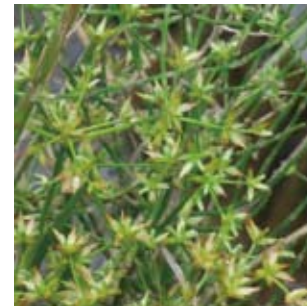
ヒメガマ



ミゾコウジュ



サイハイラン



コウガイゼキショウ



オオハナワラビ



ジロボウエンゴサク



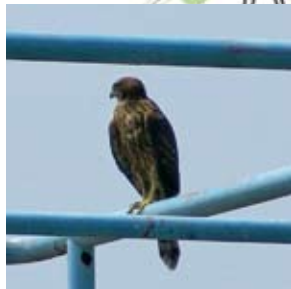
フデリンドウ



# 利根川

利根川は日本でも有数の河川の一つで、柏市付近はその中流域にあたります。利根川の河川敷は見通しのよいとても広大なエリアが特徴的で、そこは多くの野生動物の生息場所となっています。河川沿いのヨシ原と水田部の間の土手にはサイクリングロードが整備され、多くの市民がこの広大な緑を楽しみながらサイクリングやジョギングを楽しんでいます。

また、水田部と市街地の境にも土手がありますが、ここは斜面林が形成されており、景観上、貴重な緑となっています。また、この斜面林には今でも湧水が見られ、多くの動植物が生活しています。



オオタカ

広大な河川敷は、オオタカの格好の餌場です。



新大和橋とスズカケ



哺乳動物の足跡



斜面林の中

斜面林の中では森林性の動植物、湧水のある場所では湿地性の動植物を観察することができます。



アマナ



カントウタンポポ



ナガボノシロワレモコウ



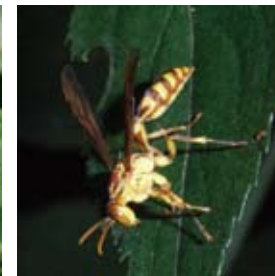
ワレモコウ



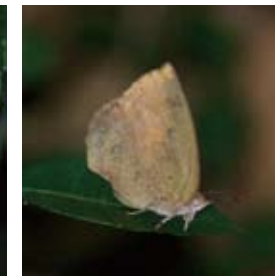
コゲラ



コムスジ



ホソアシナガバチ



ムラサキシジミ

水田部の休耕田などには、タコノアシ、タカアザミ、ホソバオグルマなどを観察することができます。また、斜面林を擁する土手の開けた場所には、アマナ、クサフジ、ウツボグサ、ワレモコウ、ツリガネニンジンなどの草花が見られます。

# 利根川



布施弁天

## あけぼの山公園 布施弁天

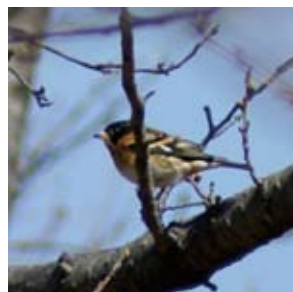
利根川沿いの斜面林にあつて、まとまった森を形成しているため、多くの生きものを観察できます。特に渡り鳥が立ち寄る冬場などにはアトリなどの野鳥の観察ポイントとして、格好の場所となっています。



ミツカドコロギ



ヤマトタムシ



アトリ

## 利根川周辺に咲く草花



ノウルシ



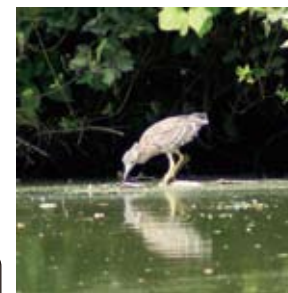
ハナウド



## 柏ビレジ水辺公園



オニヤンマ



ゴイサギ

オニヤンマは、遊水池に流れ込むビオトープの小川に沿って観察することができます。



ウチワヤンマ



ジャコウアゲハ



ハナムグラ



ハンゲショウ



ヒキノカサ

利根川の流れに隣接する止水域であるビレジ公園の遊水池は、サギ類をはじめとする多くの鳥たちの休息の場となっています。また、止水面を好むトンボなどが多く集まります。

# こんぶくろ池・正連寺

こんぶくろ池と正連寺を含む地域は特異な湿地帯です。地表近くに溜まった地下水が台地上に湧出して湿地帯を形作っています。この湿地を広い森が取り囲み、冷涼な植生環境を保持してきました。そのおかげで、ズミなどの太古からの生き残り植物を始めとするきわめて希少な湿生植物が残っています。

このため、柏市はこんぶくろ池周辺を自然公園として保全する計画です。



こんぶくろ池の湿地で見られる  
コバギボウシ



ズミは太古からの生き残り植物



ノジトラノオ



キンラン



こんぶくろ池の新緑



コバシ咲くこんぶくろ池

# こんぶくろ池・正連寺



ワタラセツリフネソウ



柏市ではこんぶくろ池  
だけで見られるヌマガヤ



こんぶくろ池の秋の宝石  
コムラサキ



こんぶくろ池の秋



ウメドモキの実



トウキョウダルマガエル



アオダイショウ



アオサギ

## 正連寺地区

かつて大堀川(地金堀)沿いの大きな谷津だったところで、こんぶくろ池から続く自然水路と林や畑からなる田園地帯です。こんぶくろ池周辺同様浸透雨水が地表に染み出す独特な地形で大湿地帯も残されており、これらの水辺を中心に多様な生物が生息しています。  
しかし、最近つくばエクスプレス沿線開発で大規模な土地造成工事が始められています。



湿地性の畑、斜面林等の田園風景



大湿地中のハンノキ



こんぶくろ池から続く小川



ヌマトラノオ



タコノアシの秋と春



ノカンゾウ



# 大堀川流域

「大堀川」本流は自然護岸と遊歩道という好適な環境の中で多くの動植物が集まっています。川の北側の台地にはかつて一帯が林であった頃の名残の「みどりの広場」や歴史遺産「松ヶ崎城跡」等自然豊かな地が点在しています。

これらを結んで歩いてみると、多様な自然と触れ合うことができます。

## 高田みどりの広場



住宅地の間にひっそりと佇む小さな林ですが、樹木の種類が多く、林床には千葉県レッドリストAのマイヅルテンナンショウが群生しており、キツリフネ、チダケサシ等季節毎の動植物も楽しめます。



コガネグモ



マイコアカネ



イヌザクラ



キツリフネ



マイヅルテンナンショウ



# 大堀川流域

## 松ヶ崎城跡



南側から眺めた松ヶ崎城跡の森

松ヶ崎城跡は台地上に堀や土塁が残る城跡で市の文化財に指定され、近隣住民の緑のオアシスとなってきました。

混交林の中には主なもので約30種の草花が生育し、県のレッドリスト掲載貴重種も8種確認されました。

しかし、2008年に6割ほどの樹木が伐採され、かなりの動植物が消失した模様です。



カラタチバナ



タカアザミ



ヒヨドリジョウゴ



シオデ



ヤマユリ



ハグロトンボ

## 大堀川と川沿い



カワセミのホバリング



松ヶ崎橋から木崎橋方向を望む



木崎橋近くのオオバンの群れ

大堀川は北千葉導水の注入等により比較的良好な水質が保たれ、土手とその周辺は広く緑地化されています。一般的なものですが土手に季節の草花が茂り、これを求めて多くの昆虫が集まります。鳥は冬期を中心に20種ほど、水中生物も20種近くが毎年確認されています。



ミゾコウジュ

# 増尾城址・広幡八幡

一帯は柏市南部中央の一大酸素供給源。緑の回廊を沼南エリアから西へ伸ばす大事な役目も担っています。城址、神域という貴重な役割に勝るとも劣らない多様な自然環境が広がり、動植物ともに見るべきものが多いのが特徴です。特に増尾城址のモミ、スダジイ、エノキ、ムクノキなどの高木、チゴユリ、ホタルブクロ、オトコエシ、コウヤボウキなどの林床植物類は見逃せません。広幡八幡のモミ、クマシデ、ヤマハンノキなどの高木群も同様です。

## 増尾城址



増尾城址公園



アオハダ



増尾城址公園・城址エリア



オトコエシ



ササバギンラン

増尾城址と大津川に挟まれた水田地帯。湿地生植物や昆虫、鳥類が数多く見られます。



大津川から増尾城址公園方面を見る

# 増尾城址・広幡八幡

広幡八幡の周辺は、大津川の広い低地へ続く斜面林と一体の緑濃い環境です。ヤマハンノキ、イヌシデ、クマシデ、アカガシ、アラカシなどの高木を見上げながら歩く道は神域にぴったりです。

## 広幡八幡



ニオイタチツボスミレ



イチヤクソウ



オオバノトンボソウ



コウヤボウキ



イチョウウキゴケ



ミクリ



オオシロカネグモ



マイコアカネ



コガネグモ



広幡八幡境内



アカガシ



広幡八幡の樹林



オトギリソウ



シュンラン



ウグイスカグラ

増尾城址の水辺部では、ギンヤンマ、ヒメアカタテハ、トノサマバッタ、コオイムシなどの昆虫、カワセミなどの野鳥を楽しむことができます。さらに大津川まで足を伸ばせば大型トンボ類、オオバン、イソシギなど水鳥類に出会えます。

# 柏市南部

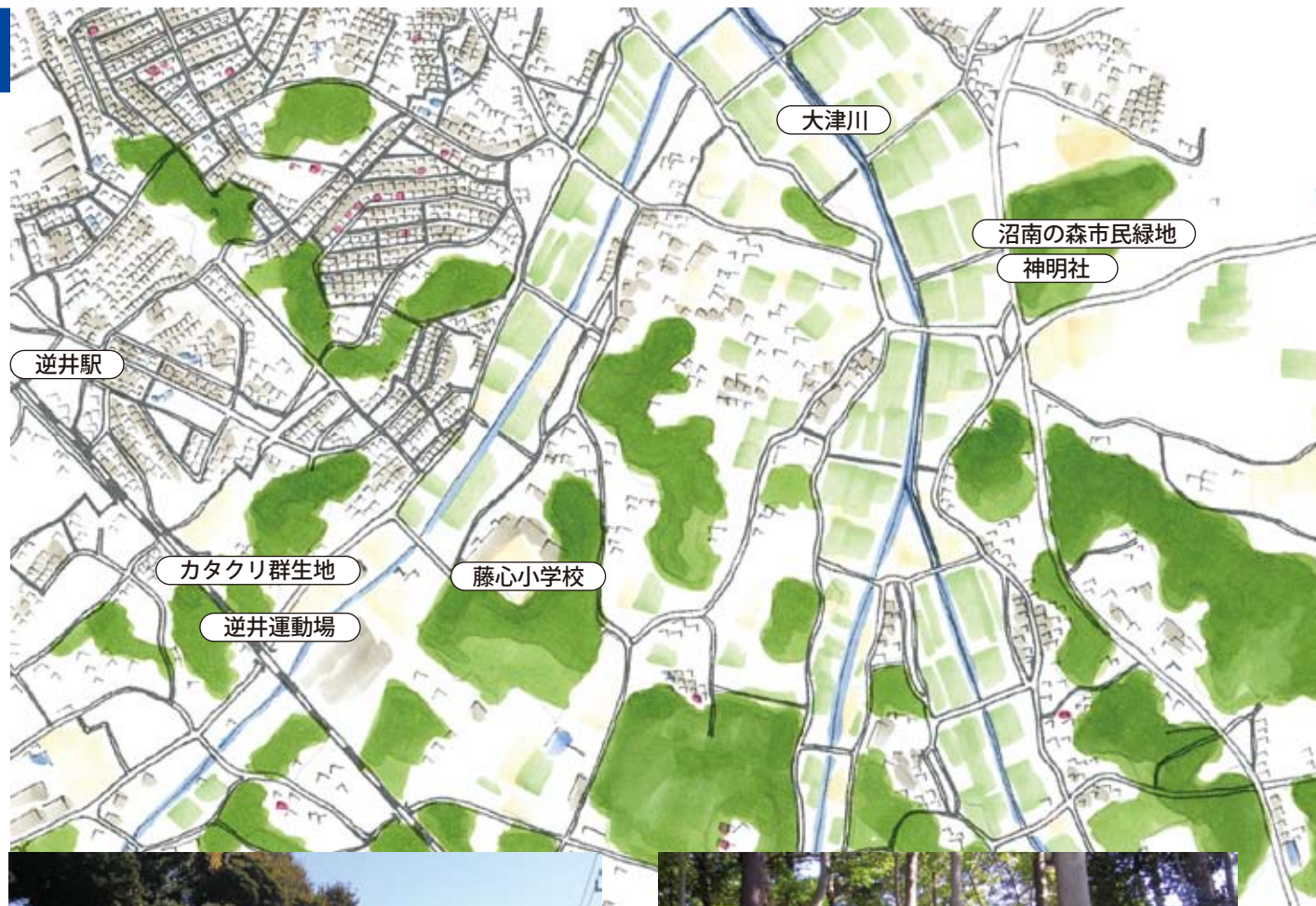
「町民の森」が「沼南の森」と変わっても、神明社の神社林と一体の豊かな森は変わりません。大津川沿いの広い水田地帯を守るように河岸台地の一部を占めています。

社殿へ向かう階段やなだらかな坂道をたどらずに右手の高みに上がる坂道を登ると、そのまま導かれるように花咲く遊歩道を一周することができます。コナラ、クヌギ、スギなど高木の林床には、チゴユリ、テイカカズラなど様々な草花がひそやかな群落を形作っています。



ミヤマナルコユリ

何本もの巨木が見事な神明社大鳥居付近。車を数台止めることができる駐車スペースになっています。前を走るのは県道船取線。道路左側はこの先の香取神宮の森あたりまで自然豊かな樹林が続きます。県道から入る小径をたどると思いがけない動植物に出会えるかもしれません。



沼南の森市民緑地（県道船取線側）



沼南の森市民緑地（林内）

# 柏市南部



ニガイチゴ



テイカカズラ



ニガナ



イチヤクソウ



ホタルブクロ



沼南の森市民緑地を大津川側から見る

コナラ、クヌギ、スギなどの高木にカエデ、ハリギリの幼木、ウグイスカグラ、モミジイチゴ、ヒイラギなどの低木と多様。周辺部の林床は明るく、キツタ、サネカズラが茂り、ところどころでホタルブクロ、コバギボウシ、イチヤクソウなどが花を咲かせています。



ナナフシモドキ



カナブンとヒカゲチョウ



チゴユリ



クワコの幼虫

# 大津川河口

大津川が手賀沼に注ぐ河口周辺地。大津川の周囲は広大な水田地帯。数多くの水路が縦横に走り、水辺の生きものが豊富に見られます。

広い水田地帯の西側の台地には中世の戸張城があり、今では文京区立柏学園となっています。東側の大井地区の台地には畑地が広がり懐かしい里山風景が残っています。この東西の台地には貴重な人里植物が今も見られます。



大津川の西側の台地には文京区立柏学園があります。ここは昔は戸張城があった場所です。



文京区立柏学園入口



今も文京区の児童が利用しているため入園は許可制



柏学園の北西斜面は多くの植物を春から秋にかけて楽しめます。フェンス越しに植物を観察できます。



イカリソウ



チダケサシ



キヌタソウ



トネアザミ

# 大津川河口



メダカ

水路は生きもの  
の宝庫



タニギキョウ



ニリンソウ



ヤマネコノメソウ

大津川より水田越しに見る  
大井地区台地



スジエビ



トウキョウダルマガエル



クサガメ



小山台斜面林（タニギキョウ自生地）



オニグモ

大井地区には今も里山  
風景が残っています  
(小山台)



里山集落の中心 福満寺



大津川の河口の湿地に咲く  
ジョウロウスゲ



# 若白毛谷津

県道から南へ一本道、東側斜面林と湧水路に沿う作業道が観察路。耕作台地、雑木林の斜面林と湧水、それに続く水田と草原…。典型的な美しい里山景観です。左手水路脇のウグイスカグラ、イボタ、カマツカなど低灌木の花も楽しめますが、ここのすばらしさは次々現れる虫や鳥。左のうっそうとした斜面付近は蝶・蛾や甲虫類、右手の明るい谷津を飛び回るのはトンボや鳥たち。1キロ余の終点までたどり着くのは至難です。

帰りは、虫たちとの新しい出会いを期待して同じ道をたどるもよし、斜面林を抜けて台地上がり里山の混交林や草花を愛でるもよし。



若白毛谷津



ヒトリシズカ



谷津東側台地の畑と斜面林



若白毛谷津・中央水路



スミレとジウニヒトエ

# 若白毛谷津



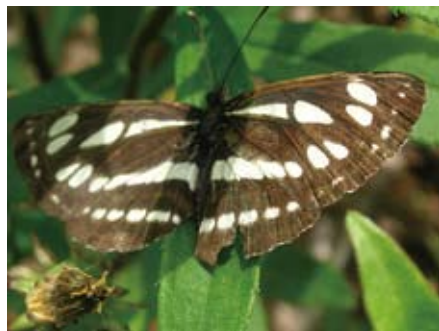
ガmazumi



レンリソウ



ルリジジミ



コミスジ



イカリソウ



アカシデ



クマヤナギ



シュレーゲルアオガエル



キジ



ハグロトンボ



ホオズキカメムシ



クルマスズメ

谷津の水田ではトウキョウダルマガエル、ニホンアマガエルが鳴き、畑や耕作放棄地にはホオジロ、キジなど里山の鳥。東側台地上にはアカシデ、イヌシデ、コナラなど。常緑・落葉混交の斜面林までの平坦地には畑が広がり、休耕地にはスミレ、アカネスミレ、ジューニヒトエが咲きます。

# 手賀の丘公園周辺

手賀の丘公園は 26.9ha の広さで、遊歩道が整備され、キャンプ場、展望台、アスレチック遊具、バーベキュー広場などが設置され、休日ともなれば大勢の家族連れで賑わいます。展望台からは手賀沼や対岸の我孫子市、遠く筑波山も望めます。手賀沼湖畔の遊歩道も整備され、エリア全体が様々な野鳥や昆虫、動植物の観察に適した場所です。

公園の南西部、柳戸地区には谷津田と巨木と静寂に囲まれた弘誓院（ぐぜいいん）があります。また、公園の東部片山地区には 4 世紀から 5 世紀の間に作られた北ノ作古墳などがあります。



手賀の丘公園



手賀の丘公園から見る筑波山

手賀沼周辺では、サギ類や猛禽類、カルガモやカイツブリなどの水鳥が見られます。

公園の林内や谷津田周りの斜面林内では、キンラン、ギンランなどのラン類やジュウニヒトエなどが観察できます。公園内のあやめ池周辺や谷津田ではオニヤンマ等のトンボ類、カワセミなどが観察できます。



シュンラン



コカブト



ジュウニヒトエ



マガモ



ダイサギ

# 手賀の丘公園周辺

公園の林内には比較的明るいところや暗いところがあり、それぞれに適応した植物が見られます。あやめ池近くの低湿地では陸生のクロマドボタルが生息しています。



あやめ池



クロマドボタルの幼虫



コ克蘭



ウラジロ



ジャコウアゲハ



弘誓院

弘誓院には雌雄2本のイチョウの木があり、幹からは乳柱が出ています。



片山の谷津田



ハグロトンボ



オニヤンマ



樹液に集まる甲虫類



猛禽類に食べられたカブトムシ



畑をグラウンドにするため土盛されて変化していく谷津の環境



キンラン

谷津田の周辺には湧水が流れ水生の生きものが多く生息しています。そのため猛禽類もいて、そのエサとなっています。しかし、2007年にグラウンドが造成されるなど、生息環境が変化しつつあります。

# 手賀・布瀬

この地区は古くから手賀沼の自然を利用した農業、漁業、カモ猟などが行われ、今日でも市内の中で宅地等の開発が少ない所で、豊かな自然の景観が多く残っているエリアです。北側の手賀川までは手賀新田、東の印西市側には布瀬新田、そして南の下手賀沼側には浦部新田が広がり、三方を河沼と田畑に囲まれた市内でも貴重な広い景観を保っています。

干拓が進んだ明治以前の手賀沼は、今よりはるかに大きな湖沼で、このエリアを囲むように水面が迫っていたと考えられます。東端にあるふるさとの森には7世紀末に創建されたと伝えられる香取鳥見神社があります。



布瀬・高野地区の谷津田



ツマグロヒョウモン



キアゲハ



ムラサキシジミ



カシワバハグマ



コクラン



リョウメンシダ群生地

# 手賀・布瀬



ヤマユリ



コジュケイ



ギンラン



ヤブレガサの群落



木の洞の巣穴に集まるニホンミツバチ



ショウジョウトンボ



カエルを捕えたシマヘビ



ニホンノウサギ



トウキョウダルマガエル



アズマヒキガエル



オオアオイトトンボ



ヤマオニグモ



香取鳥見神社の台地



とるのは写真だけ、残すのは足跡だけ

# 柏の自然ウォッチング

発行

2010年3月10日

柏市環境保全課

編集

かしわ環境ステーション運営協議会  
柏自然ウォッチャーズ

千葉県柏市南増尾 56-2 南部クリーンセンター 3F

TEL 04-7170-7090

**定価 300 円** (税込み)

本誌に記載されている記事、写真等図版の無断使用を禁じます。

